

第19回 岐阜県CSF有識者会議

日時：令和8年9月1日（火）
13時00分～

場所：岐阜県庁18階 会議室1801

（議 題）

1. 農場を守る対策

2. 野生いのしし対策

第19回岐阜県CSF有識者会議 参加者名簿

■委 員

(50音順、敬称略)

青木 博史	日本獣医生命科学大学 獣医学部 教授	Web
浅井 鉄夫	岐阜大学大学院 連合獣医学研究科 教授	
石黒 利治	(公社)岐阜県獣医師会 相談役(前会長)	
伊藤 貢	(有)あかばね動物クリニック獣医師 (一社)日本養豚開業獣医師協会 代表理事	
江口 祐輔	麻布大学 教授 フィールドワークセンター長	欠席
小寺 祐二	宇都宮大学 未来農学共創センター 野生生物管理部門 准教授	Web
平田 滋樹	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門 動物行動管理研究領域 野生動物制御グループ長	
山本 健久	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門 疫学・病態研究領域 疫学グループ長	Web

■ワーキンググループアドバイザー

迫田 義博	北海道大学大学院 獣医学研究院 教授・研究院長	Web
-------	-------------------------	-----

■オブザーバー

高木 恵実	農林水産省消費・安全局 動物衛生課	Web
新井 達弥	農林水産省消費・安全局 動物衛生課	Web
余地 晃典	農林水産省消費・安全局 動物衛生課	Web
小笠原 すず	農林水産省消費・安全局 動物衛生課	Web
吉野 毅	岐阜県養豚協会 会長	
大野 恵章	(一社)岐阜県猟友会 会長	
所 千加	ぎふジビエ協会 会長	

■県関係

堀 智考	農政部長
田口 博史	環境エネルギー生活部長
岩本 英司	農政部次長

議題 1 農場を守る対策

(1) 飼養豚のワクチン接種による抗体付与状況

(R8.7.31 現在)

- 令和元年10月の初回接種以降、ワクチン接種と定期的な抗体検査を実施。
- 農場ごとに母豚の抗体レベル（免疫付与における抗体量の水準）や離乳時期を確認したうえで、接種時期の前倒しを含め、その農場に適した時期に接種を実施。
- 令和7年度下半期と同様に、8年度上半期は母豚の陽性率が低い傾向。

<免疫付与率の推移>

検査時期	母豚	肥育豚		肥育豚の初回接種日齢（平均）
R元年度 下半期	96% (223/233)	99% (387/390)	と畜場出荷時点	81
R2年度 上半期	95% (377/395)	69% (394/574)		41
R2年度 下半期	93% (343/369)	49% (389/790)	83% (334/401)	48
R3年度 上半期	94% (583/620)	51% (410/810)	96% (333/347)	49
R3年度 下半期	84% (521/622)	54% (418/775)	93% (272/292)	47
R4年度 上半期	90% (595/663)	63% (496/788)	93% (290/312)	40
R4年度 下半期	78% (419/534)	57% (410/724)	92% (721/785)	37
R5年度 上半期	85% (522/612)	67% (476/709)	84% (740/878)	40
R5年度 下半期	83% (433/523)	55% (451/813)	81% (737/914)	42
R6年度 上半期	82% (551/670)	59% (429/723)	84% (656/779)	25
R6年度 下半期	70% (357/513)	50% (371/746)	83% (709/856)	25
R7年度 上半期	73% (458/628)	53% (367/688)	88% (625/708)	24
R7年度 下半期	68% (351/516)	46% (288/624)	77% (659/855)	25
R8年度 上半期	72% (292/406)	58% (237/410)	81% (562/691)	24

※「と畜場出荷時点」以外のデータの陽性

→ ELISA検査 陽性(S/P値0.1以上)

※「と畜場出荷時点」のデータの陽性

→ ELISA検査 陽性・疑陽性(S/P値0.05以上)

中和試験による中和抗体価1倍以上(R2年度は2倍以上)

※令和4年度下半期以降の「と畜場出荷時点」のデータは、と畜場で採材した個体のほか、出荷直前に農場で採材した個体を含む。

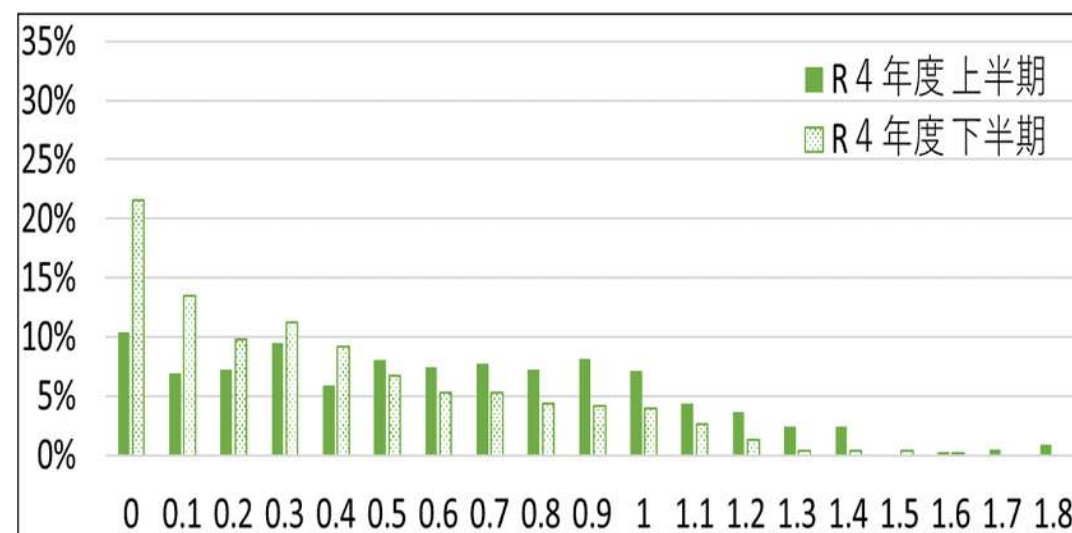
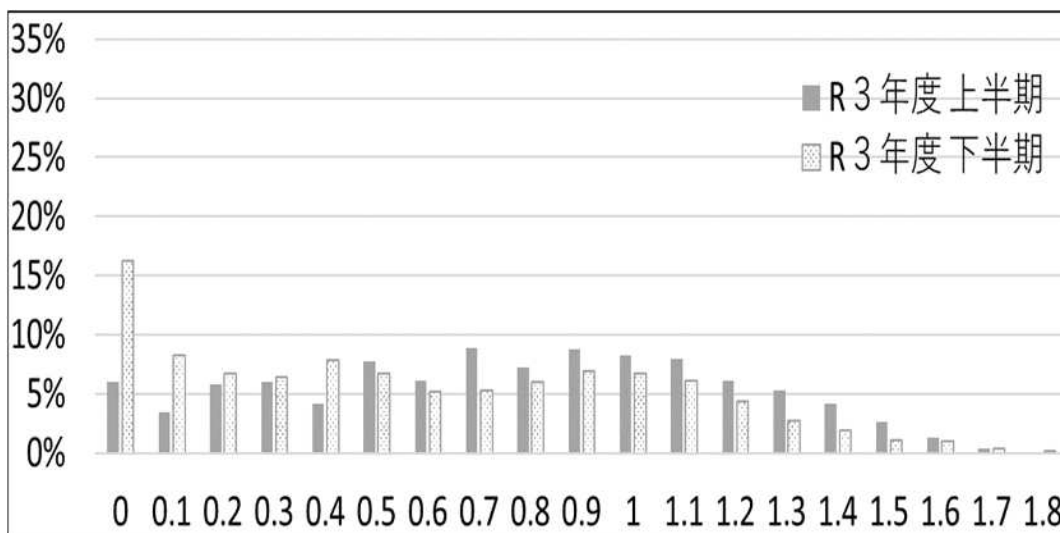
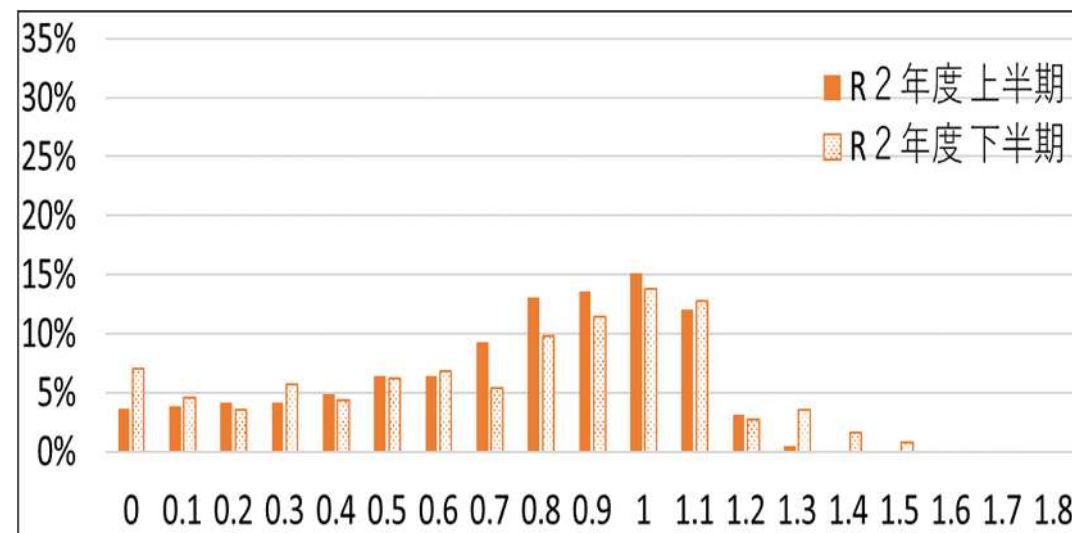
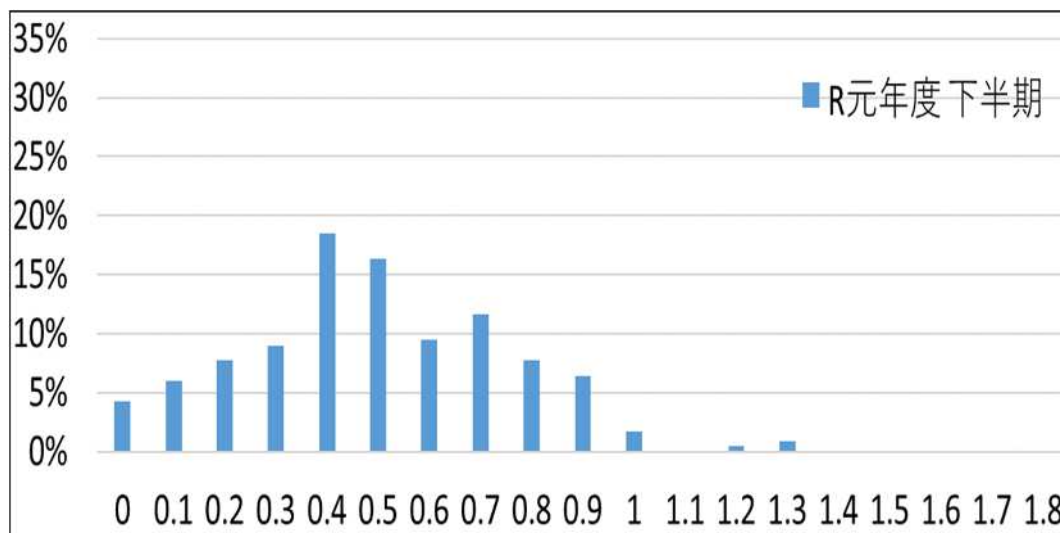
<R8上半期と畜場出荷時点検査結果の内訳>

	ELISA 陽性	ELISA 疑陽性	中和 陽性	中和 陰性	計
検体数	380	61	131	69	691
%	55.0	8.2	18.1	18.7	—

（１）飼養豚のワクチン接種による抗体付与状況

（R8.7.31現在）

＜母豚の抗体レベルの分布とその推移（R元年度下半期～4年度）＞



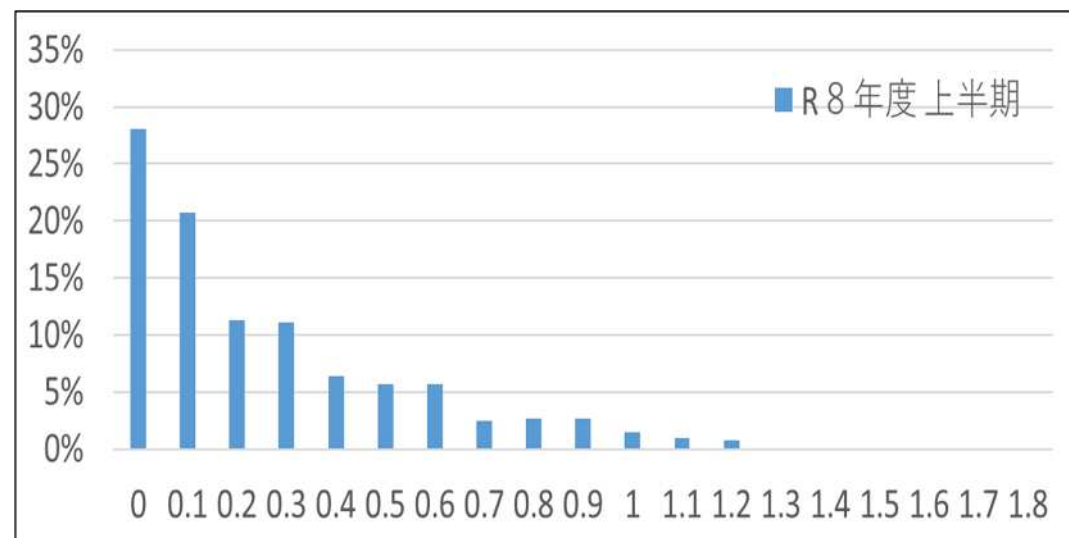
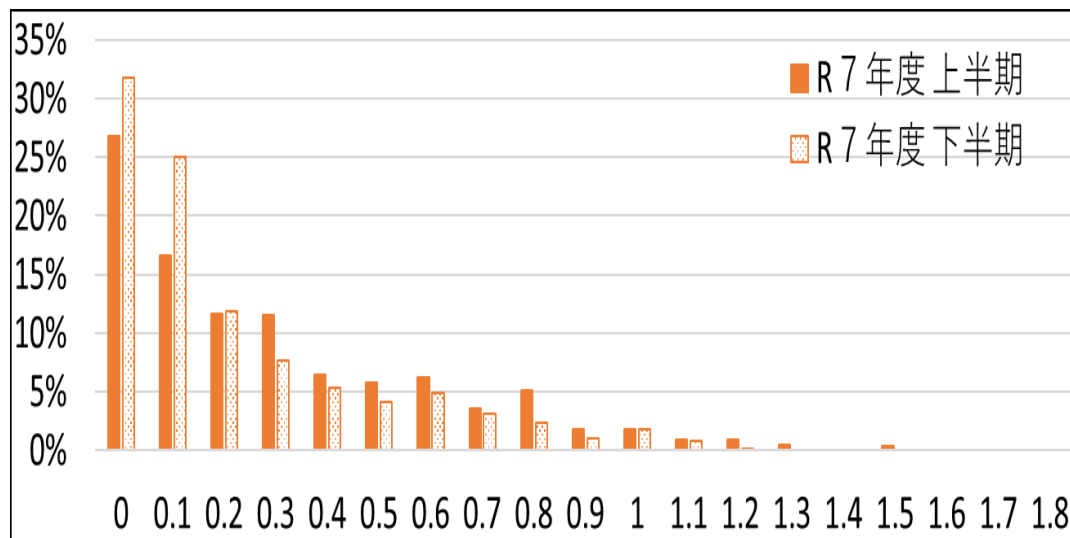
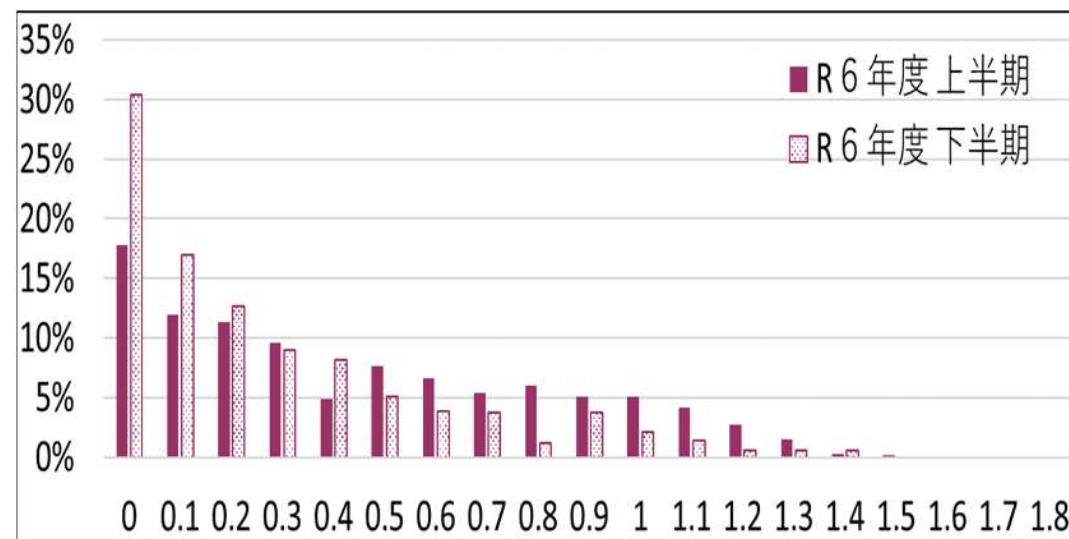
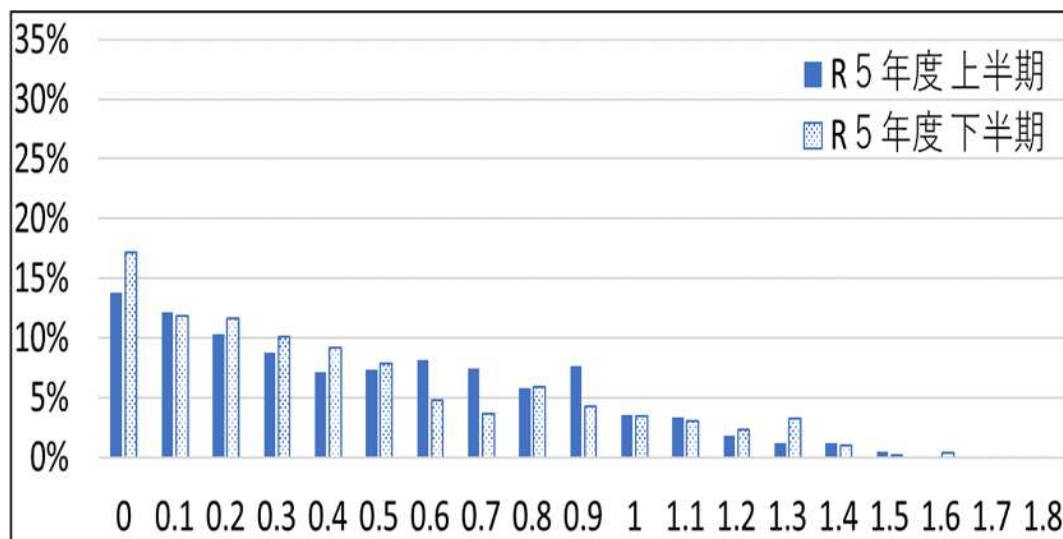
※母豚の抗体レベルの分布は、ELISA検査によるS/P値で作成。

(1) 飼養豚のワクチン接種による抗体付与状況

(R8.7.31現在)

- 令和8年度上半期の母豚の抗体価分布は、令和7年度上半期とほぼ同様、低抗体価の割合が多い傾向。

＜母豚の抗体レベルの分布とその推移(R5年度～8年度上半期)＞



※母豚の抗体レベルの分布は、ELISA検査によるS/P値で作成。

(2) 発生農場等の再開状況

- 豚熱発生農場等 22 農場のうち 16 農場が再開。飼養頭数は当時の 94.7% に回復（R8.7.31 現在）。

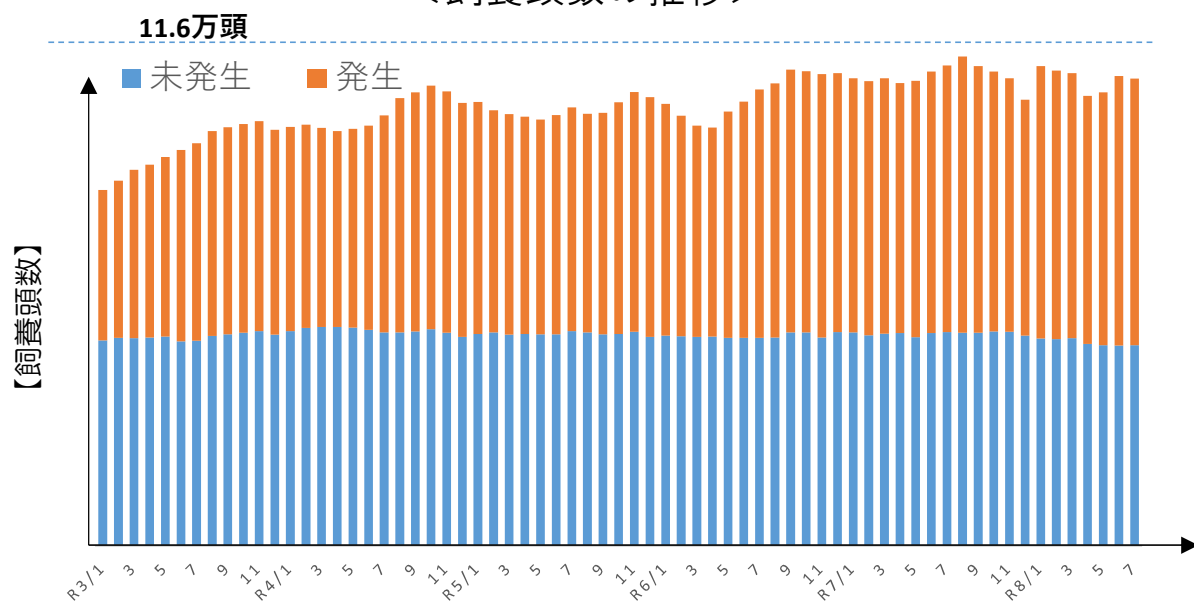
＜県豚熱発生等農場の再開状況（R8.7.31 現在）＞

豚熱発生 農場等				再開率
	出荷再開	再開未定	廃業	
22 農場	16 農場	3 農場	3 農場	72.7%

＜県飼養頭数の状況（R8.7.31 現在）＞

豚熱発生前	現在の飼養頭数	回復率
115,806 頭	109,639 頭	94.7%

＜飼養頭数の推移＞



(3) 「農場を守る対策」の取組状況

① 野生動物侵入防止壁の整備

養豚場への野生動物及び雨水の侵入を防止するため、農場周囲に整備（消費・安全対策交付金1/2）

- 整備実績

年度	地域	高さ(m)×長さ(m)	設置場所
令和6年度	恵那	2.5×80	山の斜面に面する場所
令和7年度	岐阜	1.8×282	山の斜面に面する場所、堆肥舎周辺
	飛騨	2～3×469.7	全周

- 令和7年度：岐阜地域の養豚場1戸及び飛騨地域の養豚場1戸で実施

(岐阜地域養豚場)

高さ1.8m×長さ282m

山の斜面に面している箇所と堆肥舎近くに設置

(飛騨地域養豚場)

高さ2～3m×長さ469.7m

全周に設置

(施工前)



(施工後)



(施工中)



(施工後)



(3) 「農場を守る対策」の取組状況

② ワクチン接種関連研修の実施

- ・ 接種技術等の維持のため、講習会やフォローアップ研修を実施。

(令和8年度 実績・計画)

- ・ 新規登録希望者のための「登録飼養衛生管理者研修」を、各家畜保健衛生所で開催。(随時)
- ・ 「登録飼養者衛生管理者フォローアップ研修」をWEBで開催。(9月、2月)
- ・ 「豚熱ワクチン接種に関する講習会」をWEBで開催。(11月)

③ 防疫訓練等の実施

- ・ 農場における豚熱やアフリカ豚熱の発生、野生いのししにおけるアフリカ豚熱感染発生に備え、防疫措置などの演習を実施。
- ・ 農場に対し、石灰による一斉消毒や、野生動物の侵入防止柵などの点検について、注意喚起を実施。

(令和8年度 計画)

- ・ 石灰による一斉消毒や、野生動物の侵入防止柵などの点検について、注意喚起を実施。(9月)
(一斉消毒は野生いのししの感染確認状況により、追加実施)
- ・ 野生いのししにおけるアフリカ豚熱発生に備えた防疫演習を実施。(10月)

④ 人材育成

- ・ 家畜保健衛生所職員のスキルアップのため、大学や民間家畜診療施設などに職員を派遣するほか、産業動物獣医師や県職員獣医師の確保に努める。

(令和8年度 実績・計画)

- (有)あかばね動物クリニック 1名(7月30日～ 8月28日)
- 北海道大学 1名(8月31日～11月27日)
- 国が主催する家畜衛生講習会等にこれまで職員8名が参加、今後3名が参加予定。

豚熱ワクチン 2 回接種間隔が免疫付与率に 及ぼす影響と 1 回接種との比較

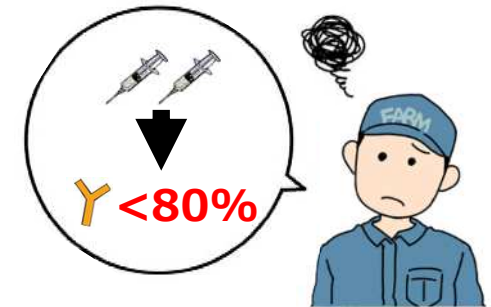
**中央家畜保健衛生所
病性鑑定第一係**

課題と研究目的



岐阜県では、多数の農場が2回接種を実施
しかし、**2回接種導入後、**
免疫付与率80%未満の農場を**複数**確認

- ・防疫上の免疫が不十分
- ・現場で対応に苦慮



なぜ2回接種で十分な免疫が得られないのか？

本研究

＜試験 1＞ 2回接種における免疫付与率低下の要因解析

＜試験 2＞ 1回接種と2回接種の有効性比較

【試験 1】 2 回接種における免疫付与率低下の要因解析

2 回接種延べ40農場のデータを基にした重回帰分析により、
初回接種日齢、接種間隔、採血日齢、母豚抗体価、PRRSと**抗体陽性率への関連**を解析

＜結果＞ 回帰係数と関連性

		初回接種日齢 	接種間隔 	採血日齢 	母豚抗体価 	PRRS (+/-) 
 抗体 陽性率	中和試験 (血清希釈)	有意な 関連なし	有意な正の関連 ($p<0.01$)	有意な 関連なし	有意な負の関連 ($p<0.05$)	有意な 関連なし
	中和試験 (ウイルス希釈)		有意な正の関連 ($p<0.001$)		有意な負の関連 ($p<0.05$)	

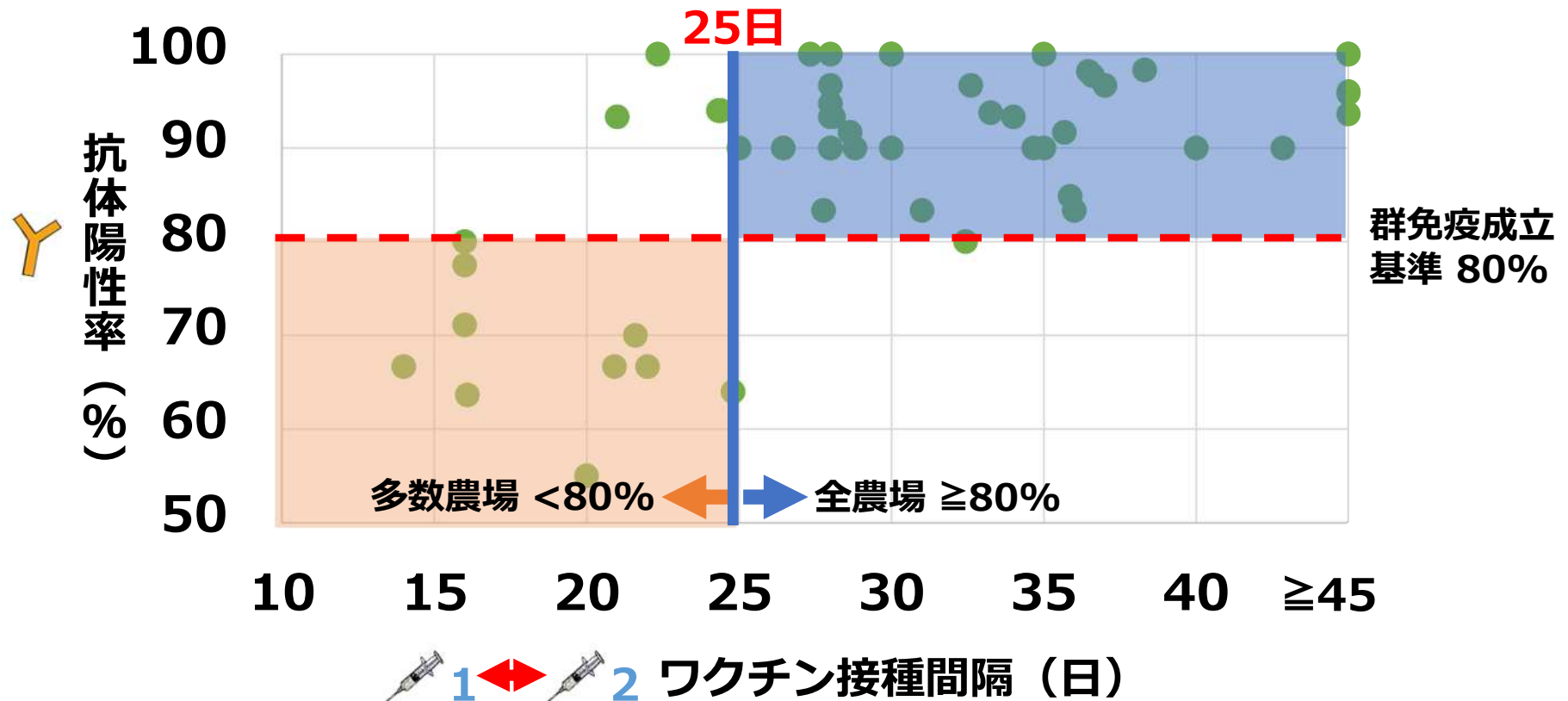
正の関連あり
(間隔が長い▲ → 陽性率▲) 負の関連あり
(高抗体価▲ → 陽性率▼)

抗体陽性率に関連した主要因子：**接種間隔**・母豚抗体価

【試験 1】最適な接種間隔の確認（散布図・ROC解析）

※ウイルス希釈法中和試験

最も有意な関連であった接種間隔と抗体陽性率との関係（n=52）

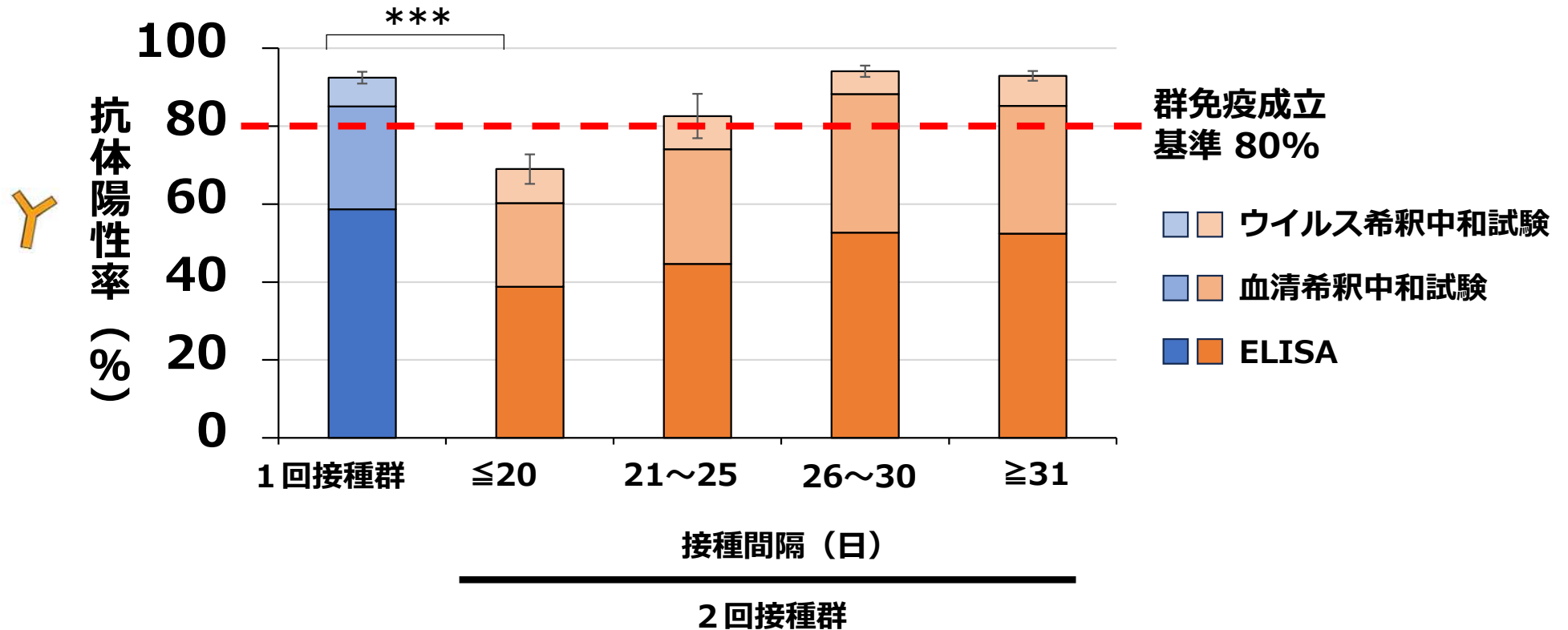


ROC解析 → 80%達成の最適カットオフ値は24.9日と推定

【試験 2】 1 回接種と 2 回接種の比較

ウィルコクソン順位和検定 ***p<0.001

2回接種群を接種間隔別に分類し、1回接種群と比較



間隔が短い 2 回接種 < 1 回接種 ・ 間隔が長い 2 回接種

→ 1 回接種でも十分な免疫付与率を得られる

本研究結果を踏まえた現場での対応例

A、B農場で抗体陽性率<80%が2年間継続

接種間隔		Y 抗体陽性率	
		A農場	B農場
≤ 3 週	2024	68%	76%
	2025	60%	71%
↓			
延長後			
≥ 4 週	2026	80%	83%

接種間隔≥ 4 週へ変更 → 両農場とも抗体陽性率≥80%達成

まとめ

試験 1

接種間隔が**短い** → **免疫付与率低下**を招く



接種間隔**25日以上**の確保が重要

試験 2

短間隔 2 回接種 < **1 回接種** ・ 長間隔 2 回接種



1 回接種でも**群免疫成立**に必要な抗体陽性率を達成

<医学分野>

短い接種間隔によるワクチン効果低下の報告あり
(B細胞の親和性成熟を阻害する可能性)



本解析結果を支持



豚熱発生予防と実用性の観点から、
肥育豚は**早期 1 回接種を基本**とする方針が望ましい

※ 2 回接種を実施する場合は、接種間隔を**25日以上**とする

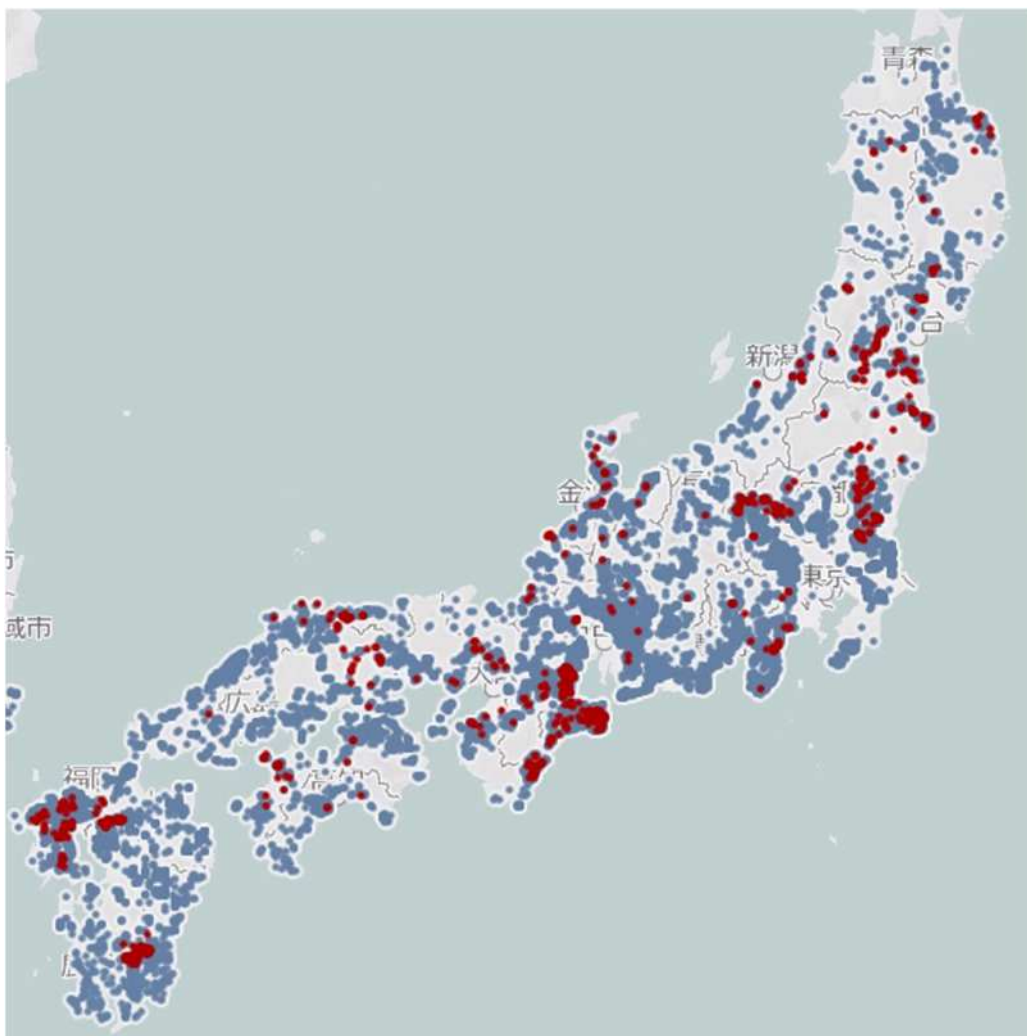
議題2 野生いのしし対策

(1) 全国の感染いのししの現状

- ・ 前回会議(R7. 9. 10)以降、新たに鹿児島県(11. 19)、熊本県(3. 26)で確認され、計43都府県に拡大。
※未確認：北海道、千葉県、大分県、沖縄県

<全国の感染いのしし確認地点>

(R7. 8. 8~R8. 2. 4)



(R8. 1. 16~R8. 7. 15)

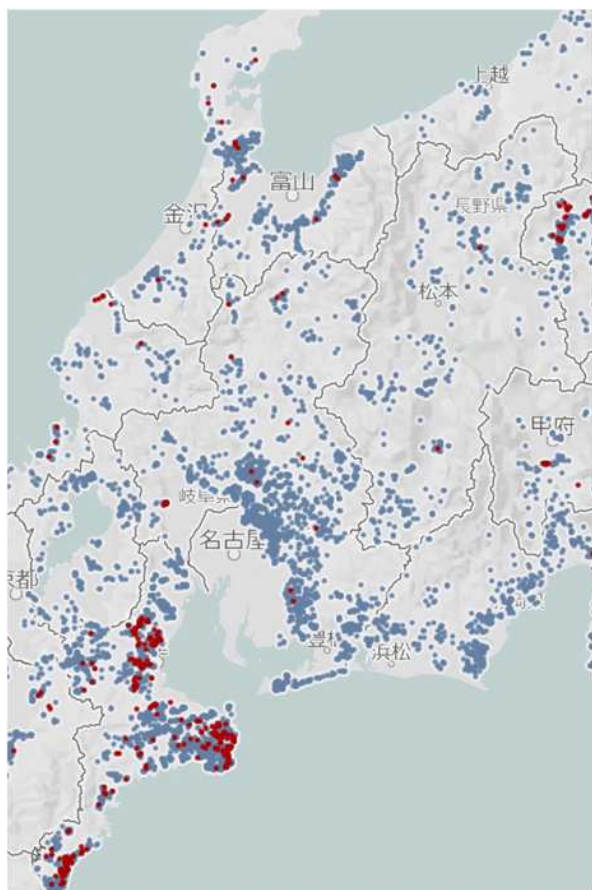


(2) 近隣県の感染いのししの状況

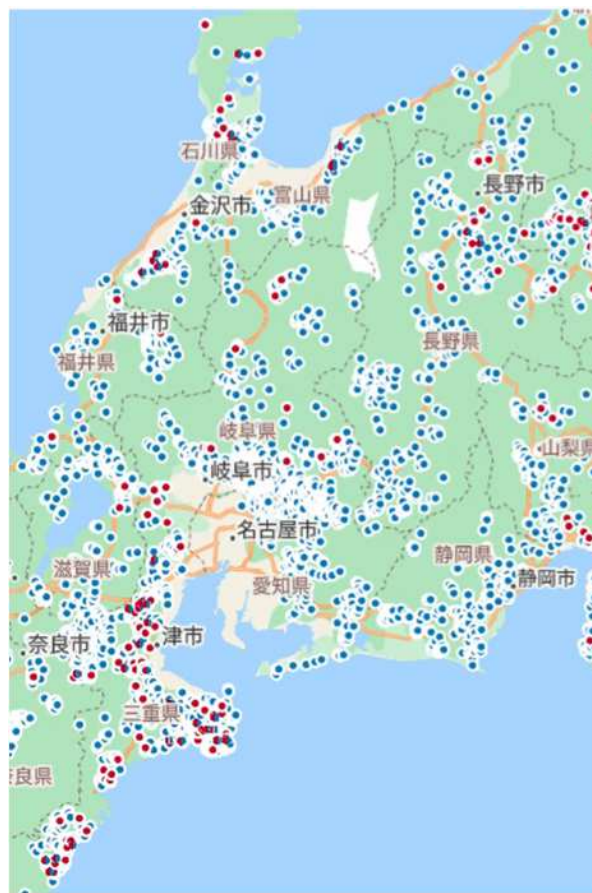
- ・ 三重県においては、継続して高い感染率を維持。

< 近隣県の感染いのしし確認地点 >

上段 (R7.8.8～R8.2.4)



下段 (R8.1.16～R8.7.15)



県名	陽性	陰性	検査数	陽性率	陽性率 (前年)
富山県	11	759	770	1.4%	3.9%
	8	427	435	1.8%	3.4%
石川県	7	220	227	3.1%	1.6%
	19	232	251	7.6%	1.8%
福井県	9	160	169	5.3%	1.0%
	3	181	184	1.6%	5.4%
長野県	2	396	398	0.5%	4.3%
	10	399	409	2.4%	2.8%
愛知県	2	741	743	0.3%	0.5%
	1	183	184	0.5%	1.3%
三重県	270	2,612	2,882	9.4%	3.4%
	145	1,400	1,545	9.4%	10.5%
滋賀県	0	286	286	0.0%	6.2%
	4	234	238	1.7%	3.7%
岐阜県	14	974	988	1.4%	3.4%
	18	750	768	2.3%	1.7%

※「陽性率(前年)」の期間は、上段:R6.6.7～R6.12.4

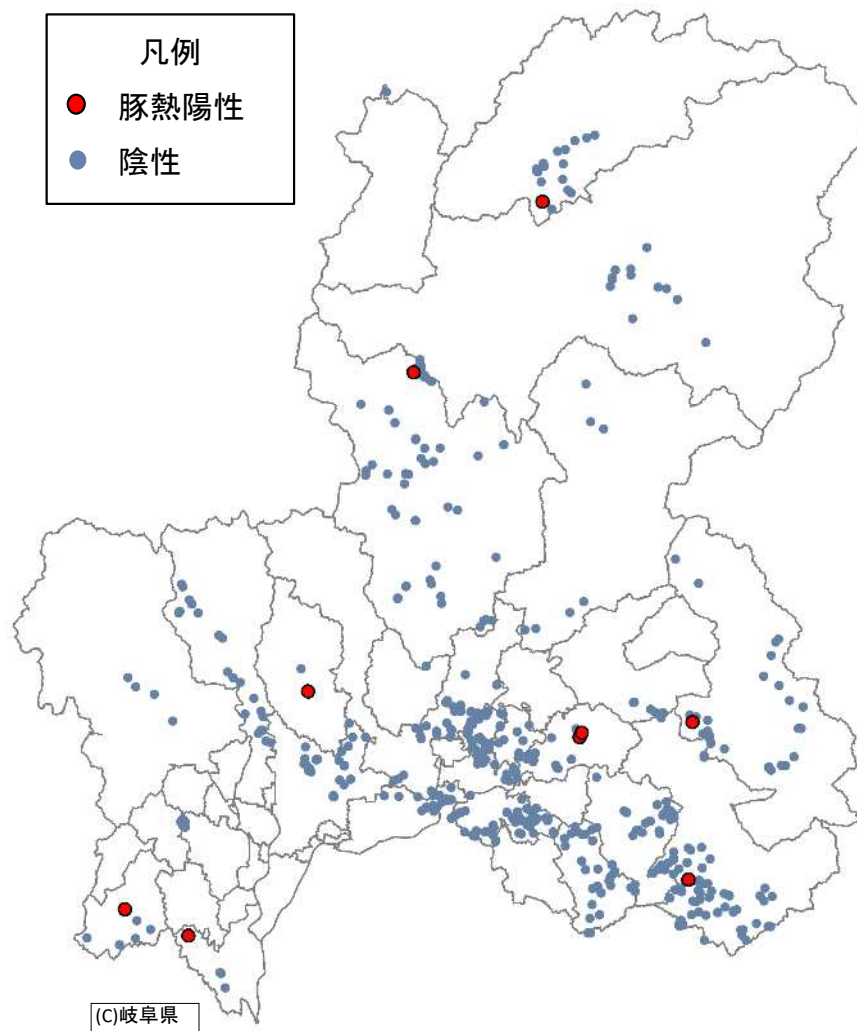
下段:R7.1.31～R7.7.30

(3) 県内のいのししの現状

① 感染状況

- 令和8年度は、8月5日時点で、9頭の感染を確認（前年度は同時期までに13頭の感染を確認）。
- 昨年度から感染頭数は少ないが、県下全域でまばらに感染を確認。

<令和8年度 野生いのしし捕獲・発見地点（R8.8.5時点）>

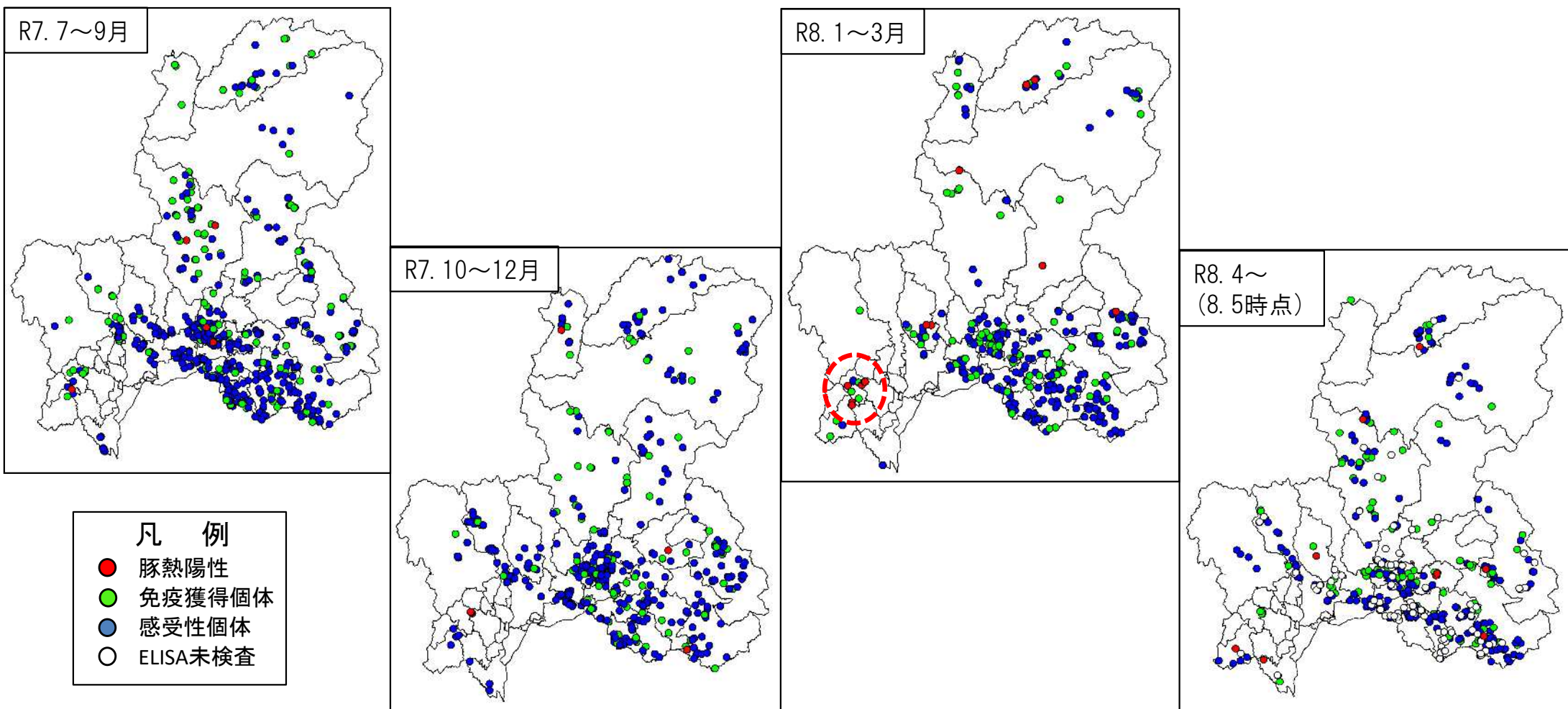


市町村名	頭数	
	R7	R8
岐阜市	1	－
山県市	3	1
大垣市	8	1
海津市	－	1
垂井町	3	－
関市	2	－
郡上市	6	1
美濃加茂市	1	－
八百津町	－	2
白川町	1	－
中津川市	1	1
恵那市	1	1
高山市	1	－
飛騨市	4	1
白川村	1	－
下呂市	2	－
計	35	9

(3) 県内のいのししの現状

- 年間を通して陽性率は低く推移した。令和7年度1.5%（令和6年度4.8%）
- 一方、陽性個体の密度は高くはないが、県下全域でまばらに感染が確認されている。
- 冬季において、西濃地域（大垣市、垂井町）で陽性が複数頭確認された。

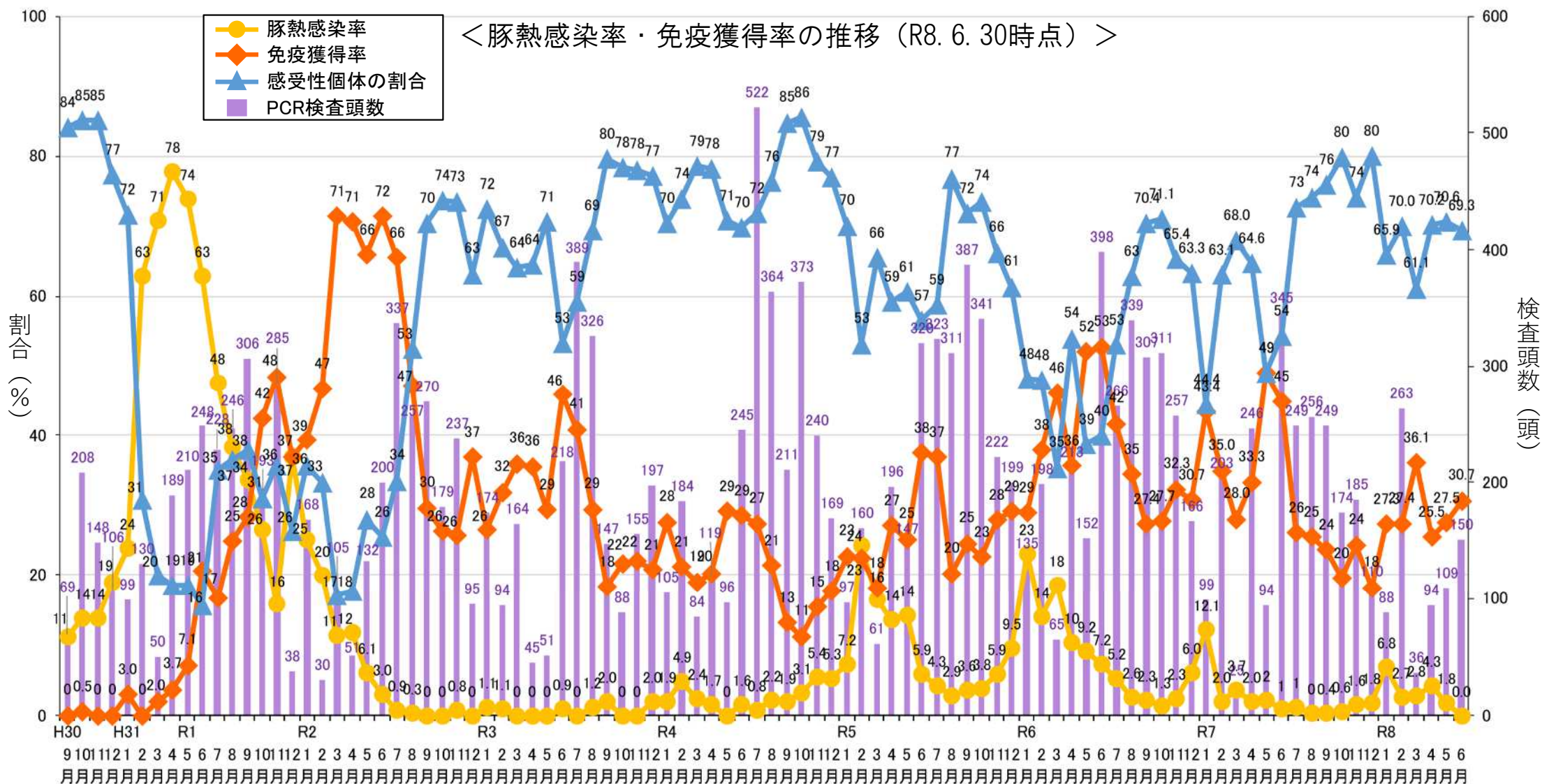
<四半期別感染いのしし確認地点>



(3) 県内のいのししの現状

② 免疫獲得率

- 令和2～4年度までは年々減少傾向にあったが、令和5年から上昇傾向に転じ、令和6年5～6月には50%を上回ったが、その後は19%～49%の間で推移している。

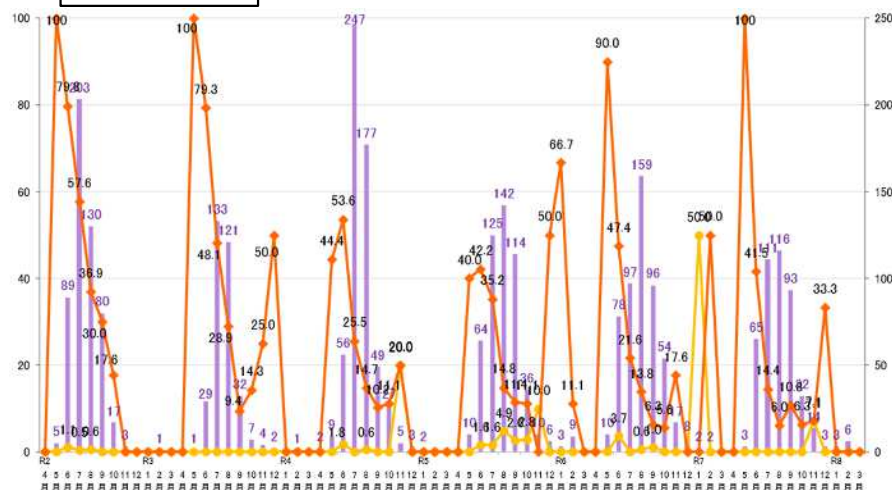


(3) 県内のいのししの現状

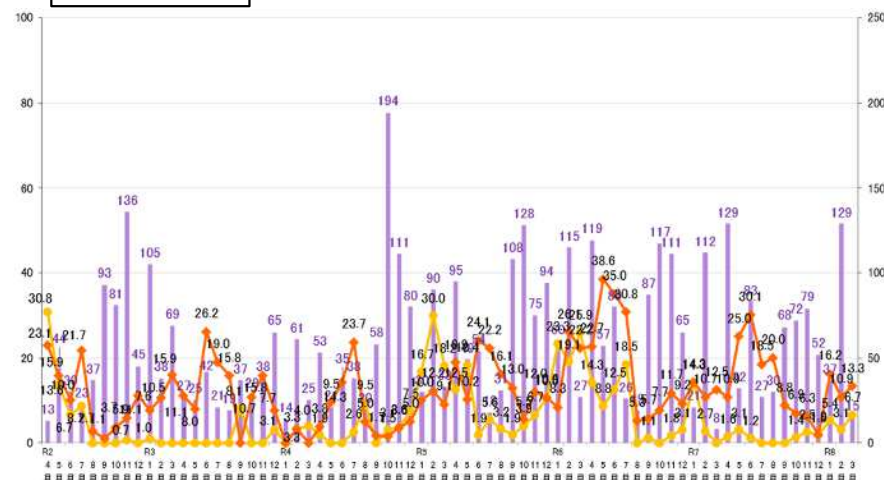
- 令和5年から12か月齢以上で免疫獲得率が上昇傾向にあり、24か月齢以上では令和6年2月以降50%以上で推移している。

<月齢4区分別 豚熱感染率・免疫獲得率の推移>

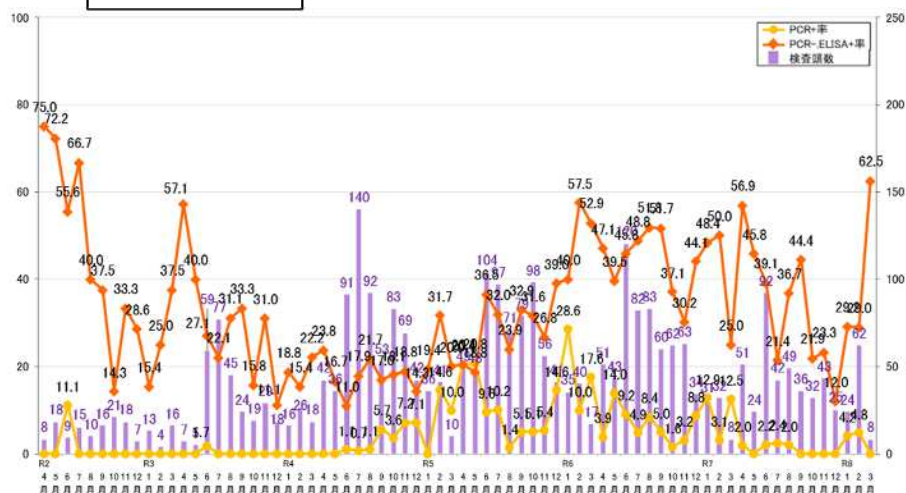
4か月齢未満



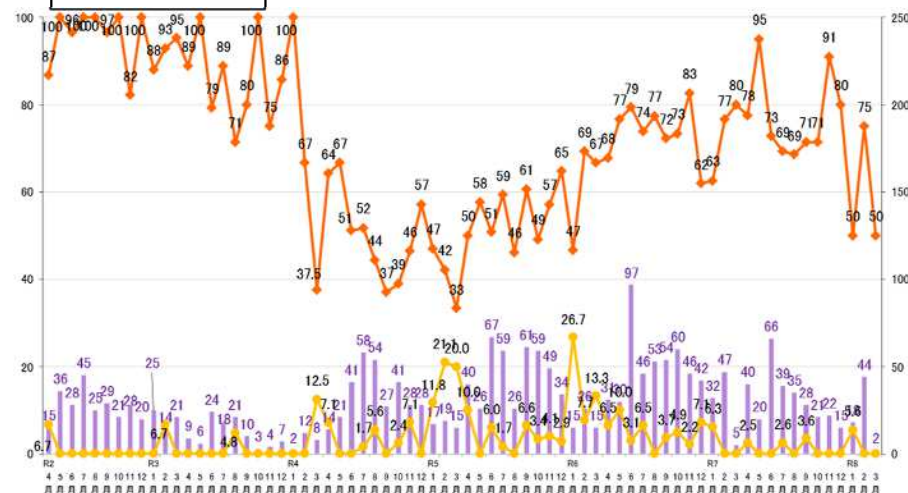
4～12か月齢



12～24か月齢



24か月齢以上



(4) 「野生いのしし対策」の取組状況

① 捕獲の強化

- 調査捕獲や有害捕獲の支援を実施。

＜平成30年度以降の野生いのししの捕獲頭数(R8.6.30時点＞

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8※
調査捕獲 (その他捕獲を含む)	552	1, 574	2, 502	1, 468	1, 684	1, 421	1, 727	1, 355	－
有害捕獲	8, 310	3, 581	2, 368	2, 767	3, 685	4, 470	5, 104	5, 553 [※]	1, 079
狩 猟 (R1は広域捕獲)	2, 114	720	1, 948	1, 970	2, 292	2, 010	2, 380	2, 680 [※]	－
合 計	10, 979	5, 875	6, 818	6, 205	7, 661	7, 901	9, 211	9, 588	1, 079

※は速報値

② 経口ワクチン散布

- 年間2期3回の散布を実施。

＜令和8年度散布実績・予定(定期散布)＞

	前 期	後 期	
	1回目	2回目	3回目
北 部	6/3～6/7	9/2～9/6	10/21～10/25
南 部		10/21～10/25	1/20～1/24
	実施済 (2,223地点)	実施予定	実施予定

(5) 経口ワクチンの摂食率向上に向けた取組み

○ 摂食率向上に向けた取組み

- 散布方法の変更（イノシシの習性に着目した改良型散布方法の普及）
実証試験において摂食地点率の増加が確認された改良型の散布方法を他地域に普及・拡大

※従来型：深さ10cm程度の穴にワクチンを埋設

※改良型①：土を10cm掘り下げ、経口ワクチンを散布し、その上に30cm程度の石を乗せる

※改良型②：土の上に直接経口ワクチンを散布し、その上に30cm程度の石を乗せる

タヌキなど小動物による
盗食を防止（当県開発）

<改良型散布方法の実証状況（関ヶ原町）>（摂食率（地点））

	R4	R5	R6	R7	R8
前期 1 回目	18%	40%	32%	63%	未実施
前期 2 回目	18%	40%	33%	63%	
後期 1 回目	27%	40%	44%	73%	
後期 2 回目	64%	40%	48%	27% ※	
散布方式 （誘因餌）	従来型 （米ぬか）	改良型① （米ぬか）	改良型② （米ぬか）	改良型② （とうもろこし）	

※ R 7 後期 2 回目は地点が異なる

<改良型散布方法の普及状況>

- 改良型散布方法マニュアル作成
- 経口ワクチン野外散布説明会で配布、説明



（令和 8 年 4 月作成）

<経口ワクチンの摂食率と改良型散布方法の普及状況（県下）>（摂食率（地点））

	R7		R8	
	南部	北部	南部	北部
前期 1 回目	49%	34%	57%	57%
前期 2 回目	55%	54%		
後期 1 回目	52%	46%	(未実施)	
後期 2 回目	63%	46%		
改良型②普及率	53%		(集計中)	

(6) 国産経口ワクチンの導入に向けた取り組み

(農林水産省へ情報提供)

○ 散布概要

散布地域：関ヶ原町

実施期間：① 3 / 9 ~ 3 / 19

② 3 / 23 ~ 4 / 7

散布方法：改良型（ケーキ方式）

散布日	散布地点数	摂食率※1	ロスト率※2	備考
①R8/3/12	27	41%	65%	
②R8/3/30	24	17%	38%	3/31~4/2降雨
合計	51	29%	53%	

※1 摂食率はいのしし痕跡（石が崩れている）地点数の割合

※2 ロスト率は散布個数に対する消失個数の割合



改良型（ケーキ方式）



いのしし痕跡

○ 散布結果

- ・ ロスト率が高いのは、いのししがワクチン袋を飲み込んだことによる可能性がある。
（参考：同一地点における令和7年度従来ワクチンのロスト率平均20%）
- ・ 降雨により水を含んだベイト剤はもろく崩れやすく、ワクチン袋がむき出しのまま残っていた。
- ・ いのししの痕跡がある地点でもワクチン袋のみが未摂取で残っているケースがあったが、これはいのししや小動物がベイト剤のみ摂食している可能性がある。



水を含んだベイト剤



いのしし痕跡地点のワクチン袋
（破れずそのまま残っている）



いのしし食痕と思われる
ワクチン殻

(7) 令和8年度の狩猟期に向けた対策

1 1月に解禁される狩猟期に向け、豚熱ウイルスをさらに拡散させないように、対策を継続実施。

① 防疫研修等を受講したもののみの狩猟登録（他県者の入猟の自粛を見直し）

- ・ 狩猟時の消毒の励行、留意事項を徹底するため、狩猟登録にあたり防疫研修等の修了を確認。
- ・ 狩猟免許試験、狩猟免許更新時及び狩猟者登録証交付時にも、防疫に関する資料を配布。
- ・ 狩猟者登録の申請期間開始前に、各都道府県及び各県猟友会あて、岐阜県に入猟しようとする者へ狩猟者登録手続きの徹底を通知。

「防疫研修会」等の実施状況

- ・ 豚熱や防疫の基礎知識、捕獲時の消毒方法等、いのしし肉の取扱いなどについて研修。
 - 狩猟事故防止研修会
 - ・ 猟友会支部における狩猟事故防止研修会で防疫措置等について徹底(8月中旬～12月中旬を予定)。
 - 狩猟免許更新講習等
 - ・ 6～8月に県庁及び各総合庁舎で実施した狩猟免許更新講習などで防疫措置について啓発。

② 防疫措置の自己点検、監視・指導

- ・ 出猟したときに日時、地域を記録する「出猟カレンダー」を利用して自己チェックを実施。
- ・ 県猟友会の協力のもと「狩猟事故防止指導員」「安全狩猟指導員」が巡回し、防疫措置等を監視・指導。

③ その他

- ・ 「狩猟時の防疫措置の徹底」「捕獲個体の適正処理」「サーベイランス検体の提供」などを県猟友会に依頼。
- ・ 「いのししまップぎふ」や県公式HPなどを利用し、野生いのししの豚熱感染確認状況を随時情報提供。

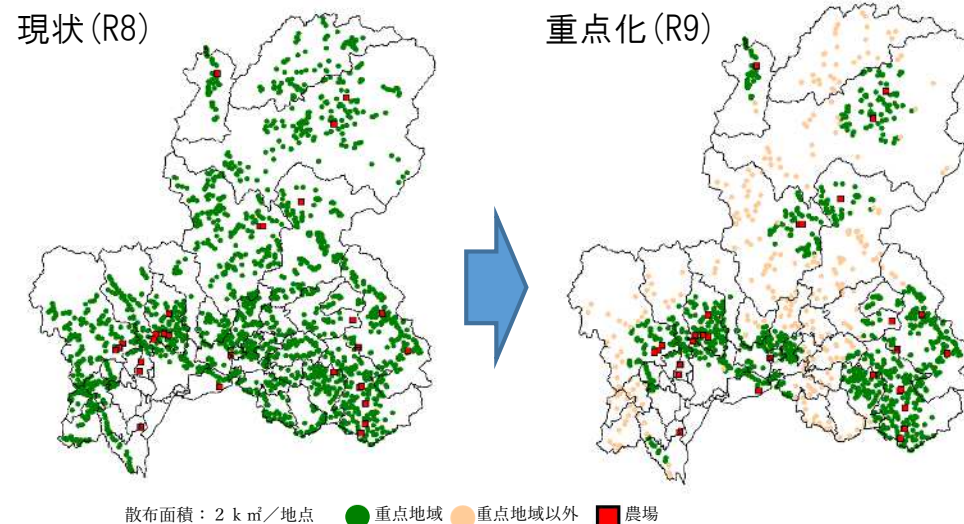
(8) 令和9年度に向けた対策

① 経口ワクチン散布地点の重点化

- ・国内の野生いのしし対策が長期にわたることを踏まえ、終息への道筋を見据えつつ、以下の取組を進める。
 - 野生いのししの誘引力を高める散布方法を普及し、摂食率向上を図る
 - 農場周辺における散布地点の重点化

重点地域：農場を中心とした半径10km圏内
重点地域以外：現状の半分の地点数

	現状 (R8)	重点化 (R9)
散布地点数	2,223地点	1,500地点
散布面積	4,359km ²	3,000km ²



② 調査捕獲の見直し

- ・調査捕獲から捕獲の強化に向けた指定管理事業への見直しを図る。

獲頭数目標 調査捕獲 (R8) 450頭 → 指定管理事業 (R9) 2,000頭

③ その他

- ・経口ワクチン散布地点の重点化に伴う検体数の適正化
(2,700検体→1,800検体)
- ・業務の効率化のため歯列判定を廃止

	R8	R9
調査捕獲	300検体	—
指定管理	—	600検体
有害捕獲	1,600検体	800検体
狩 獵	800検体	400検体
合 計	2,700検体	1,800検体

(9) ジビエ利用について

① ジビエ事業者申出状況

- 「【岐阜県版】野生いのししジビエ利用マニュアル」を令和4年8月1日に発出。(令和8年3月23日改定)

<申出事業者一覧・年度別処理実績(R8.7.31)>

番号	処理施設の名称	所在地	承認 年度	施設処理頭数					合計
				R4	R5	R6	R7	R8	
1	ジビエトミノ	関市	R4	3	2	0	0	0	5
2	ジビエ工房めいほう	郡上市	R4	7	6	0	4	1	18
3	苗木ジビエ	中津川市	R4	3	0	3	3	0	9
4	飛騨狩人工房	高山市	R4	0	2	0	0	—	2
5	野生獣肉解体処理Bambi	飛騨市	R4	0	0	—	—	—	0
6	自然派工房ほたる	恵那市	R4	0	2	6	0	13	21
7	猟師29	飛騨市	R4	1	1	0	0	0	2
8	一般社団法人 郡上地美恵	郡上市	R5	0	2	0	0	1	3
9	株式会社 恵那ジビエ	恵那市	R5	—	0	15	8	56	79
10	GOD HILL WILD	飛騨市	R5	—	6	1	0	0	7
11	五宝の滝	八百津町	R5	—	2	0	0	23	25
12	飛騨高山 舞地美恵	高山市	R6	—	—	6	29	9	44
13	山命	下呂市	R7	—	—	0	9	3	12
14	けものみち	八百津町	R7	—	—	—	2	20	22
15	美濃飛騨グルメ	郡上市	R7	—	—	—	4	2	6
16	多治見ジビエ処 亀井	多治見	R7	—	—	—	1	0	1
17	肉屋Gu-ni	郡上市	R8	—	—	—	—	2	2
18	ジビエ山県	山県市	R8	—	—	—	—	1	1
合 計				14	23	31	60	131	259

※ No.17はR8年度に新設の施設。—は未更新により失効。

<ジビエ利用を避ける区域>…陽性高率確認エリア

家畜保健衛生所管内ごとに、直近1年間の豚熱陽性率が20%を超えたエリア

※20%を超えたエリアについては、翌月以降20%以下となった場合、利用再開を可とする。

<家保管内別・豚熱陽性率(R8.7.31)>

年度	家保	豚熱陽性率			
		4月	5月	6月	7月
R8	中央	5.2%	5.3%	5.6%	4.9%
	中濃	1.1%	1.0%	0.9%	0.8%
	東濃	0.3%	0.4%	0.5%	0.6%
	飛騨	2.4%	2.0%	2.2%	2.3%

② 陽性確認時の防疫措置

- R8年度に陽性が2件あり、処理施設の防疫対策を実施(R8.7月)。